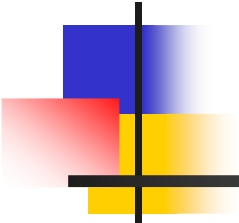


# 辰野町まちづくり委員会 第4期提言にあたり

～提言書 補完～



---

・辰野町まちづくり委員会

第4期委員長 赤羽 昭比古

平成26年1月27日



# 1. まちづくり委員会の使命

---

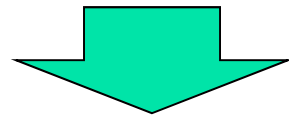
- 平成18年発足。2年任期で今年度で4期目
- 委員会の目的
  - －1. **協働のまちづくり**に関する研究。
  - －2. 町の施策等まちづくりに関する意見・提言を行う。

## 2. 今迄の経過と成果

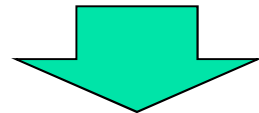
設置	第4次総合計画後 期基本計画	町民と協働した行政運 営を目指す	まちづくり委員会の設置を記載した	
1期	H18～19	「協働のまちづくり指針」 策定	協働のまちづくりの基本方針	
2期	H20～21	「協働ってなあに」(手引 書)	全戸配布して協働のまちづくりをPR・シン ポジウム開催	導入期
3期	H22～23	「ほたるの里地域づくり 耳寄り情報」	地域づくりを活発に進めるための情報提供 資料	↓
4期	<b>H24～25</b>	<b>第五次総前期基本計画 「協働のまちづくり」の検 証</b>	<b>H24年度(導入期の“棚卸”作業)</b> ・職員との意見交換会の実施 ・協働項目の進捗と評価 ・成果事例発表会の開催	

### 3. 総合計画と『協働』の関係

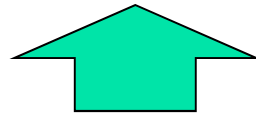
一大居住拠点都市構想



町民と事業者と行政の協働による『まちと活力と暮らし』づくり



協働して七つの施策大綱を取組む



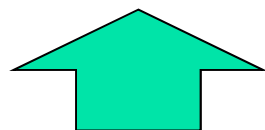
PDCAのサイクルを確立して変化に応じた施策の見直し



## 4. 今期の活動内容

第3期からの申送りを加味して

1. 五次総に盛込まれた**協働**に係る**各施策の進捗状況の把握**と町民の意見が施策に反映出来る仕組みの検討  
(PDCAのCの時期と認識して)
2. 協働のまちづくりを推進するための実行機関の検討



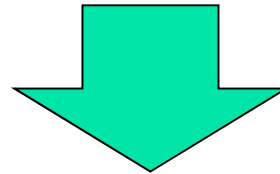
\* 町民に活動が見える委員会に



## 4-1. 今期の委員会運営の仕方

---

- 従来は行政サイドが全て事務局運営し、提案された事を討論・研究する仕組み。



- 今期は従来 of 事務局 + 委員4名の参加による運営委員会を設置。そこでの運営論議を経て、全てを動かす仕組みとした。



## 5. 活動の結果

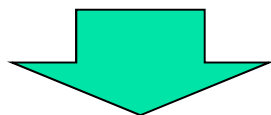
- 五次総協働項目の進捗状況の把握
  - 178項目の進捗具合 問題点摘出
- 協働項目の関わり方の整理
  - 関与度のA・・Eの評価と整理
- 事例発表会の実施
  - 協働活動宣伝と委員会の見える化
- 提言に向けての調査研究
  - 県のNPO課への調査・提言との整合性
- 実行機関とする為の検討は未着手

## 5-1. 施策の進捗状況の把握結果

1. 『五次総』に掲げる協働に係る項目178件の  
状況把握“棚卸”を実施。

詳細は把握シートにてご説明。

色々課題もある一方、以下の様な成果も出ている。



- ・自主防災組織全区組織化
- ・助け合いマップの取組み
- ・地区社協体制
- ・荒神山再整備WS実施
- ・学校支援ボランティア …… etc



# 協働活動の進め方(イメージ図)

## (2) 協働活動の進め方

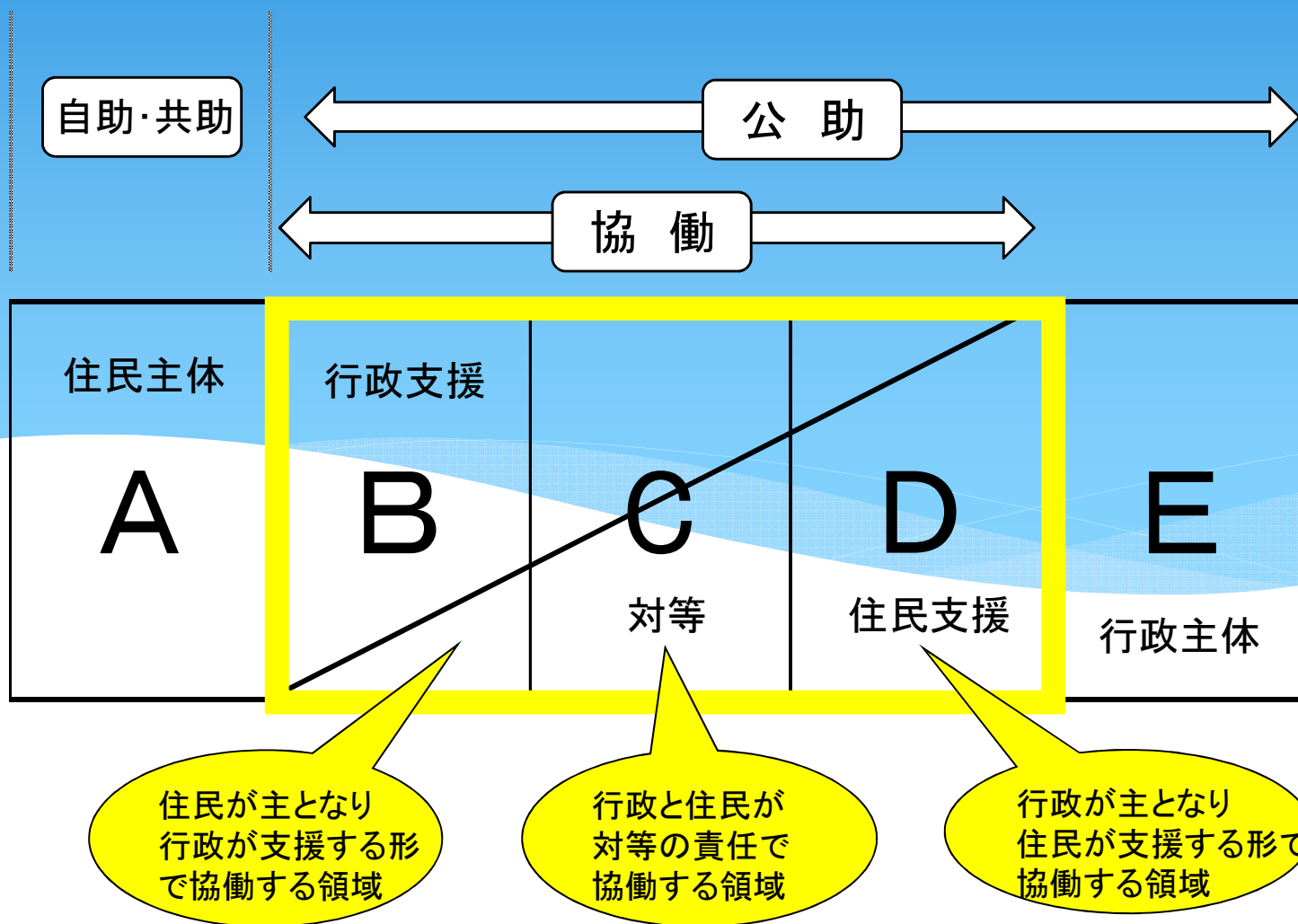
<自助・互助・公助のイメージ>



(共助)

「自助・互助・公助」を基本に、個々の課題解決に適した活動形態の中で、役割分担を明確にすることが重要です。

# 住民分野と行政分野の概念図 (協働のスケール)



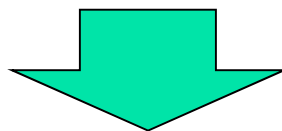
# 評価結果

協働のスケール		区分	数	主な協働のまちづくり項目
住民主体		A	5	地域新エネルギーの活用、健康手帳による自己管理
協働	行政支援	B	53	景観、森林保全、支え合いマップ作成、高齢者福祉、介護、健康教室参加、自主防災強化、地域産業(農林工業)、家庭と学校の情報共有、青少年健全(子育てマスター)、生涯学習(分館活動)、地域コミュニティ、国際交流
	対等	C	26	アレチウリ駆除、林道維持、ごみステーション管理、障がい者支援、地域支え合い活動、交通対策、農山村集落維持、防災訓練
	住民支援	D	65	子育て、公園管理、消防団員確保、不法投棄監視、防災計画策定参画、食育イベント参加、学校支援地域本部活動、図書館ボラ、男女共同参画
行政主体		E	20	生活困窮者支援、地籍調査協力、下水道接続、公害対応、地域情報化、消費者トラブルへの情報共有
判断不能		—	9	
協働項目数178に対して			178	



## 5-2. 成果事例発表会の実施

1. 協働の取組みで得られた成果を公表して、『協働のまちづくり』に対する理解を深めると共に、情報を共有する。



2. その中から課題を抽出し、協働の次のステップへの足掛りとする。



## 6-1. 事例発表会の結果

---

- 8月10日 午後の実施
- 発表テーマ3件
- 参加者53名
- 評価は良好。



## 6-2. 協働のまちづくり成果事例発表 会の概要と結果

---

○目的 ⇒ 2つ

①協働活動宣伝

⇒『協働』をテーマに成果の出ている事例を発表

②まちづくり委員会の見える化

⇒1から3期の活動経過と今期の活動を報告



## 6-3. テーマは…

---

- ①自主防災組織全区組織化の達成について
- ②地域福祉活動の推進に向けて
- ③学校支援ボランティアの取り組みについて



## 6-4. 手法

---

○テーマは『協働』で・・・

⇒実際に活動を行っている住民と行政の担当者がそれぞれの立場で役割、活動を発表することでより身近で、イメージできる。



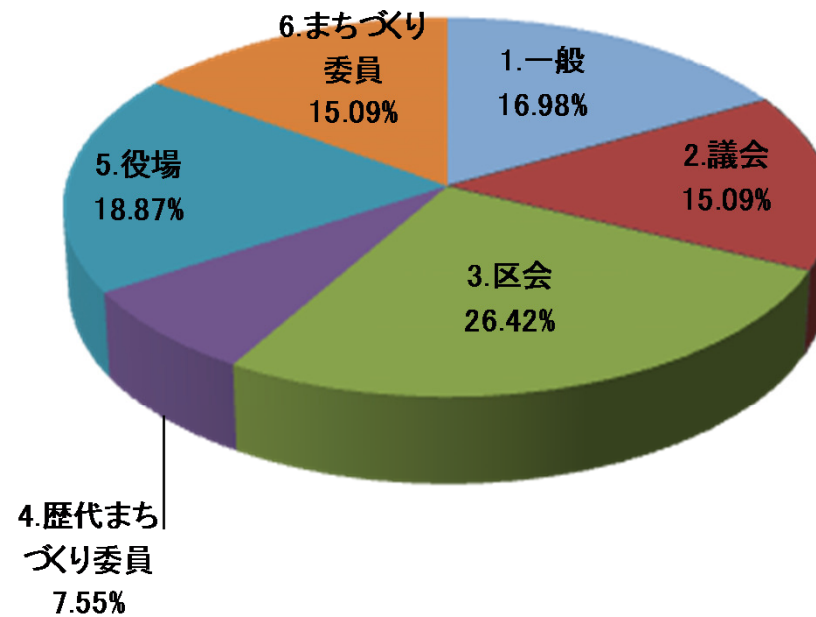
## 6-5. 結果

### 出席者数集計

出席者数	人数(人)
1.一般	9
2.議会	8
3.区会	14
4.歴代まちづくり委員	4
5.役場	10
6.まちづくり委員	8
合計	53

※発表者(6名+事務局4名)

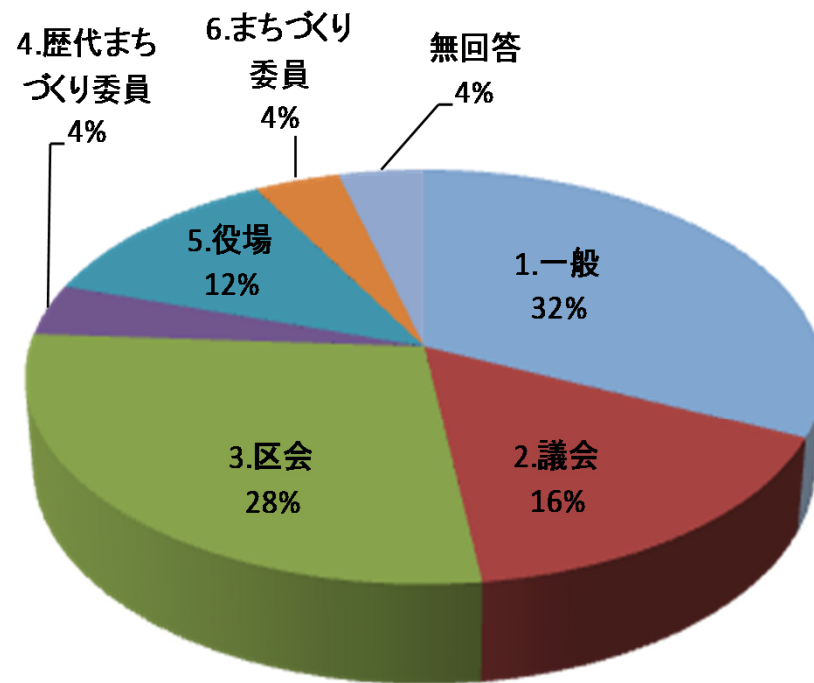
### 出席者数割合(%)



## 問1. ご自分の所属について

所属別回答者数	人数(人)
1.一般	8
2.議会	4
3.区会	7
4.歴代まちづくり委員	1
5.役場	3
6.まちづくり委員	1
無回答	1
合計	25

### 所属別回答者数割合(%)





## 問2-(1) 自主防災組織全区組織化の達成について

---

- 12. 全区に組織化ができたので連絡会で意見交換ができないかと思った。
- 14. 組織をつくったが、そのあとの日々の活動が問題だと思った。
- 15. 自主防災の問題については、今、最も求められている課題だと思います。現在の防災組織は型ばかりのもので、実際に災害発生の場合に機能して活動できるかが課題だと思います。



## 問2-(2)地域福祉活動の推進に向けて

- 10. 上辰野の取り組みは区内各組織を活用した成果と考えます。無理せず、長く続けられるよう区民要望等を聞き入れ工夫されたい。
- 13. 区と社協の執行者の分離は難しいのでは？  
(地区社協に負担がかかりすぎる)
- 15. 地区社協の重要性が理解できた。上辰野事例は構成も規模も連携も非常に参考になりました。組織化の必要性和余りにも多すぎる各種団体の整理統合も考えるべきかと思う。



## 問2－（3）学校支援ボランティアの取り組みについて

---

- 5. 学校ボランティアは協働領域では『C』ではありませんか。学校と住民（ボランティア）が対等でなければ長続きしないと考えます。
- 12. 学校以上をやってもいいか。その辺のかねあいが難しい。
- 16. 三者とものメリットがよい。



## 問3 全体を通したご意見

- 3. 自分たちの町は自分たちで守り、発展させるため、このような、事例発表など多くしていただければと思う。  
○
- 7. 協働のまちづくりの根幹は地区の自治会が担っているが、旧態以前の古い体質の改革なくしては前進しない。議論のテーマとして取り上げて欲しい。
- 14. 自主組織が地域に拡大し定着して行くことは良い事である。しかし、余りにも多くなりすぎて一人がいくつもの活動が重なるため、苦痛を訴える人もいる。交通整理役を当委員会に期待したい。



## 7. 現状把握と発表会からの課題抽出

1. 協働と言うパラダイムシフトの理解不足が行政、住民双方にある。
2. 行政TOPの指導力も不足している。
3. 五次総の協働項目について、行政サイドの理解も希薄である。又協働に馴染まない項目案件もある。
4. 協働を支援する機能が欠如している。
5. 広報宣伝活動が不足している。



## 8. 提言

---

上述の課題を基に提言を致します。

本提言に当たっては、県庁NPO課を始め  
幾つかの自治体の情報を収集しながら  
纏めたものです。





## 提言1:コーディネート窓口の設置

---

- 協働のまちづくり指針に基づき、協働を推進するため、ワンストップの『窓口』の設置が必要です。
- 今年度県が設置した『協働コーディネートデスク』と同様な機能をイメージしています。
  -



## 提言2: 広報宣伝活動の充実

---

- 協働の考え方を広く浸透させるために、成果発表会や事例発表会を定期的に行うべきです。
- こうした機会から協働の課題を見極めて次の手を打つ管理サイクルを回すべきです。



## 提言3: 住民が深く関与した協働項目策定

---

- 五次総の協働項目は、行政目線で書かれており、住民目線でみると内容がそぐわないものが多いです。
- 以降の計画では、住民参加度を増やし、この点の役割の整理と明確化が必須です。



## 提言4: 行政は強力なトップダウンで牽引を

---

- 行政サイドに於いては、強力なTOPダウンで、課・係単位まで協働の思想浸透が図られる事が必須です。
- その為に課毎に『協働推進員』を設ける仕組み、教育体制を望みます。



## 提言5: 地域幹部の協働の理解深化

---

- 住民サイドの協働への関心を高める為、区長会や分館長会等で、考え方を丁寧に説明すべきです。
- 特に、区長会を中心に地域の特性に合わせた、協働の有り方に付いて一定の方向付けをすべきです。



## 提言6: 進化するまちづくり委員会へ

---

- 本委員会は単に研究や提言に留まらず、行政側の委員を加えた、実行機関としての機能を持たせた委員会へ移行検討に入るべきです。
- 一例として、協働のまちづくり支援金をより身近な制度にするため、上記委員会も交えて制度の見直しを検討しては如何でしょうか。また、活動成果を発表する「場」も必要です。



## 7. 提言を終えて

---

- 述べてきた提言がより多く、実現に移行出来ます様、お願い申し上げます。
- 今、町民は新町政に新しい変革を期待しています。この提言がスピードを持って実行に移される事を期待します。



## 8. 最後に

---

- 新しい試みで運営をサポート頂いた事務局の皆様、運営委員会に参加頂いた委員の皆様、多くの役職を持ちながらご参集頂いた委員の皆様にお礼申し上げます。